

学校教育目標	・自律…自ら考え、判断し、行動する ・尊重…違いを理解し、他者を尊重する ・創造…他者と協働しながら新たな価値を創造する	経営理念	人間尊重と生徒、保護者及び地域との信頼を基盤として、持続可能な社会の創造者・開拓者を育成する。
--------	--	------	---

評価計画					自己評価					学校関係者評価 (学校運営協議会による評価)		改善方策		
項目	重点	中期経営目標	短期経営目標	目標達成のための方策	評価項目	目標値		達成度	評価	結果と課題の分析	評価	コメント	改善方策	
						10月	2月							
生徒が自律的に活動する学校	1	安心・安全な環境の中で関わり合いやつながりを大切に、豊かな人間性や社会性を育む	・豊かな人間性や社会性を育む	・特別活動における「話し合い活動」の研究及び実践 ・生徒会による行事の運営、活性化 ・キャリア教育の充実	①「話し合いは役立つと感じている」の肯定的な評価の割合	90%	1年85% 2年84% 3年94% 平均85%	1年82% 2年90% 3年94% 平均89%	99%	3	話し合いは役立つと感じる生徒が増えてきた。今後も目的や意義を理解させ、積極的に話し合う活動を取り入れていきたい。	A	話すことがコミュニケーションと思わないように願っています。	話し合い活動の進め方、やり方について定着を図る。
					②「学校行事、生徒会行事に満足している」の肯定的な評価の割合	90%	1年86% 2年79% 3年85% 平均80%	1年83.7% 2年85.4% 3年87.9% 平均85.6%	95%	2	中間評価よりも達成値は上がった。12月に行った生徒会行事や引継ぎなどで生徒の活躍する場面が多くあり、本校の生徒たちも行事に参加していると実感ももてた。	A	メタ認知能力の育成・把握の場であると、思います。	生徒会行事にむけた取組を計画的に行い、生徒会執行部会議を利用する。
					③「職場体験学習が役に立った」の肯定的な評価の割合	85%		100%	118%	4	実際の体験を通して、働くことへの理解を深め、働くことの尊さや意義を養うことができた。社会で求められる態度やマナーの大切さも実感していた。これからの学校生活で習慣化できるよう取り組みを継続する。	A	良い取組だと思います。ぜひ、生徒のために実りあることなので、続けてください。	・体験の内容を充実させるために、5日間の実施にする。 ・年間行事とのバランスをとり、事前・事後の学習を深めるために、実施時期を変更する。
			・問題行動・不登校の未然防止や解決に向けた取組を充実させる	・SSRの充実 ・生徒指導サポート実践校事業の取組 ・SC及び心のサポートと連携した教育相談 ・QUの実施、分析	④不登校生徒の欠席日数	前年度(97日、26人)比減	68日 20人	91日 24人 (1月末現在)	107%	3	例年に続き、不登校生徒数が多いが、登校できる生徒が多く校内で会うことができる。担任を中心に学年やSSRに係わる教員がしっかり関わることで、その成果が出ている。	A	SSRでの居場所づくりや学習の指導が続けられ、参加する生徒にとっては、安心して進路に向けて意欲づけがなされている。	特別欠席扱いの生徒が通常の欠席となり、欠席数が増加すると考えられ、より密に家庭連携が必要となる。
					⑤教育相談の実施回数	年4回実施	2回実施	3回実施 (1月末現在)	75%	2	2月のいじめアンケート後に教育相談期間を予定している。教育相談期の時間の捻出に難しさを感じるが、年間を通じて、教育相談期間を有効に活用し、生徒理解が進んでいる。	A	具体的ないじめ事案、指導の紹介もしてほしかった。	教育相談は、生徒を理解する上で必要となるが、時間の捻出が難しいため、教務部と連携し、計画的に進める。
					⑥QUの分析結果(学級生活不満足群)	10%未満	1年15% 2年18% 3年11% 平均15%	1年21% 2年18% 3年12% 平均17%	59%	2	コロナ禍の中、多くの内容が通常に戻っていった中で、生徒も教員も苦勞しているように感じる。できることが増えている反面、ICT関係など一気に行えることが増え、スムーズにいかない現実もある。この中で対応できるようにしなければならない。	B	学校への所属感などが低いのが気になります。アフターコロナにおける学校適応が表面化していると思います。	コロナ禍から元の生活に戻る中で、より丁寧な生徒指導・生徒理解が必要になり、長期的に考える必要がある。
資質・能力を育む学校	2	生徒一人一人の自己実現に向け資質・能力を確実に育成する	・授業改善への取組の充実	・質の高い「問い」の設定 ・デジタル機器の活用 ・校内外の研修や研究会に参加及び教育センター専門講座の受講 ・「対話」を促す探究デザイン	⑦講師を招聘した校内研修の実施	年3回実施	3回実施	3回実施	100%	3	木下先生を招聘して、研究の方向性の確認、単元構想シートの作成、ICTの活用事例の紹介の研修ができた。	B	同数をクリアすれば、質の高い「問い」につながるのか。担当の教諭から具体的な説明がほしい。	単元構想シートを使って、本質的な「問い」、単元を通して「問い」、個別の「問い」を立て、校内研修で各教科で「問い」が適切であるか協議した。また、ブロック研修でも「問い」が主体的・対話的で深い学びにつながったかなどを協議し、質の高い「問い」につながるよう研修した。
					⑧場面に応じたデジタル機器の活用状況	100%	100%	100%	100%	3	全教職員がデジタル機器に関して活用する場面が増えた。	A	授業参観を通して、積極的にデジタル機器を活用していることが分かった。	引き続き、研修等を活用して教職員のデジタル機器活用向上に努めていく。
					⑨校内外の研修や研究会、教育センター専門講座の受講状況	100%	100%	100%	100%	3	全教職員が校内外の研修に積極的に参加することができた。	A	生徒が学びたいと実感できる学校となるよう、自己研鑽に励んでください。	引き続き、校内外の研修に参加するようしていく。
					⑩ア:生徒が生徒同士や生徒と教師などの対話を通して学べるように指導している(教師アンケート) イ:生徒が教え合ったり、話し合ったりする学びの場を設定している(教師アンケート)	100%	ア 96% イ 96% 平均 96%	ア 90% イ 100% 平均 95%	95%	2	生徒が教え合ったり、学び合ったりする学び合いの場の設定は全教員が実施している。ほとんどの教員が対話を通して学べるように意識して授業ができています。	A	一人一人が真剣に学習している点は素晴らしい。(課題について真剣に追究している姿は、見ていて気持ちがよかった。「学びのラボ」の活用は意義があると評価できる。	引き続き、学び合い、教え合いの場を設定し、課題を探究する授業づくりに取り組む。また、「学びのラボ」を継続させ、学ぶ楽しさを実感させたい。
					⑪全国学力・学習状況調査等の結果	市平均以上	概ね市平均以上	概ね市平均以上	概ね達成	2	各学年の国語、数学、理科のうち3年数学以外は、すべて市平均を上回った。3年数学では、基本的な知識や図形領域の内容に課題が見られたが、習熟度テストは、年間を通して全国平均・県平均を全て上回り改善が見られた。(習熟度は市平均のデータなし)	A	知識・技能を習得しての主体性だと思えます。今後も熱心に取組を継続してください。	生徒の主体的な学びを促すために、「学びのラボ」を継続させ、知識・技能の定着を図るとともに、学び方を指導する。
					・カリキュラム・マネジメントの充実	・単元テストの実施及び振り返り ・単元構想シートの活用 ・学習評価の在り方研修	⑫単元テスト振り返りと振り返りの活用状況	80%	振り返り90% 振り返りの活用85%	振り返り86% 振り返りの活用85%	107%	3	テストを受けたら、何がよくなったか、何が足りなかったかなど取組を振り返っている生徒が86%、振り返ったことを学習に生かしている生徒が85%で、目標値を超えている。	B
⑬単元構想シートの作成状況	100%	一人1単元は作成	一人1単元以上は作成	100%			3	一人1単元は単元構想シートを作成した。ブロック研修をする際は、その単元についての単元構想シートを作成した。	A	これからは授業改善に努め、授業力の向上を図ってください。	引き続き、ブロック研修や全体研修を行い、授業力の向上に努めていきたい。			
⑭「生活ノート」「探究ノート」を活用した学習状況調査	80%	生活ノート54% 探究ノート81%	生活ノート50% 探究ノート80%	81%			2	生活ノートを使って学習計画を立てる50%、探究ノートを使って学習を進める80%で、生活ノートの活用が十分ではなかったため、継続して指導していきたい。	B	生活ノートで立てる学習計画が、実行性・具体性のあるものか再検討する必要があると思う。	生活ノートで立てる学習計画が生徒の実態に合っていない可能性があるため、再検討していきたい。			
信頼される学校	3	先見性と一貫性があり、保護者・地域から信頼される	・働き方改革への取組	・ポータルサイトへの登録・活用 ・部活動方針の遵守 ・仕事の仕方改革に取り組む	⑮ポータルサイトへの登録状況及び活用状況	100%	100%	100%	100%	3	全保護者が登録しており、大切な事項については、積極的に市民ポータルサイトを活用している。	A	積極的に情報発信に努めてください。	
					⑯在校等時間のうち超過勤務が月80時間以下	100%	79%	82.5%	83%	2	1月現在で、在校時間のうち超過勤務が月80以上の教員が7名いるが、意識をしている様子が見える。校内平均は53時間01分となっている。	A	改善を期待していますが、難しい問題だと思います。	
					⑰学校評価結果・分析対策	年3回実施	2回目実施	年3回実施	100%	3	計画的に実施することができた。いただいた評価を全体で共有し、改善につなげることができた。	A	地域に開かれた学校となるよう期待しています。	

※目標の精選と重点化を行い、重点の項に「1」「2」「3」で表示する。

■自己評価

4...目標を上回って達成      3...目標どおりに達成  
2...目標をやや下回って達成      1...目標をかなり下回って達成

■学校関係者評価 (学校運営協議会による評価)

A...とても適切である      B...概ね適切である  
C...あまり適切でない      D...全く適切でない